



冤罪事件

■2004年2月17日、三重県四日市市のジャスコのATMコーナーで、若い女に泥棒扱いされ、た、実際には無罪の68歳の男性が、店員や買い物客ら数人に取り押さえられた後に死亡した事件がありました。覚えていらっしゃいますか？死因は「高度のストレスによる高血圧性心不全と不整脈」と発表されましたが、この「ストレス」は逮捕・制圧の際のストレスであるとされています。現在も警察は捜査を続けているが、事件の端緒となる「泥棒」発言をした女は未だ自ら名乗り出る事すら無く、見つかっていません。

■事件の様子はこうです。両手を買物袋を持ってふさがれていた男性がまずスーパーのATMにはいり、ATMの操作をしていました。すると若い女性が、男性がいるにもかかわらず、ATMに入ってくるのです。女性は突然、男性の肩にぶつかっていき、体を触る様な仕草をしたかと思うと男性の胸ぐらをつかみ、もみ合いとなります。このあと「泥棒」と女性が叫びます。この声を受け、店員や買い物客が取り押さえ、女が立ち去った後、別の万引き事件の処理で居合わせた警察官2名が現場に到着し、男性を後ろ手に手錠をかけ20分間うつぶせで押さえつけたのです。この20分間の間に、男性は意識を失い、嘔吐もしていたのですが、さらに警察官は拘束を続けました。通報を受け応援の警察官が事件現場に到着すると、男性は意識を失い、嘔吐した形跡があったため、男性の拘束を解き、救急車で病院に搬送します。しかし、男性は翌日帰らぬ人となってしまったのです。一説によると、この女性がこの男性のキャッシュカードを奪い取ろうとし、ことが果たせなかったため、犯罪がばれると思って行った行動からこんな事件になってしまったとも言われています。現場には恐らく知り合いもいたかもしれませんが、でも共犯者と思われるのが嫌でこの方を救済しなかったかも知れません。無実の人間を「思い込み・勘違いの正義」や「無作為の行動」が抹殺してしまったとはいえないでしょうか？

■さて、私はこの冤罪事件を知ったとき、急に映画パッションを思い出してしていました。イエス様が十字架につけられる前後のほんの短い時間を取り上げた映画で、キリスト教国である、アメリカヨーロッパでは大変な話題を呼んだ映画でした。映画の中で、イエス様が当時のユダヤの総督であったピラトというローマ人の前に連れ出され、名前ばかりの裁判をする場面があります。ピラトは何としても、イエス様を無罪放免にしたかったのですが、ユダヤの指導者はそれを許しません。始めからイエス様をローマ式の死刑、十字架につけることを彼らは狙っていたのです。ユダヤ教の指導者たちは、イエス様の多くの奇跡を見ても、また彼らが信奉していた旧約聖書に精通している様子を見ても、なお、イエスが待望していたキリストであるとは認めたくなかったのです。彼らにとって、ご自分「神の子」と言うイエスは、民衆を扇動するまさに異端者なのです。ところが、実際はどうだったのかと言えば、自分たちの生活を豪華なものにするために、金策の手段としてユダヤ教を利用しておきながら、自分たちの地位や財産が危うくなると、正しい人さへ抹殺しようとしたのが、このユダヤ教の指導者たちの行動だったのです。つまり「意図的悪意に満ちた正義感」がイエス様を十字架で葬り去りたかっただけだったのです。

■人間が繰り返し繰り返し起こる紛争や戦争は、さらには、個人的に引き起こしてしまう犯罪の数々は、さらには、個人間の些細ないさかいなども、この思い込み・勘違いの正義、さらには意図的悪意に満ちた正義感から引き起こされているとは言えないでしょうか？この行為、この思いが、聖書で言う「罪」なのです。あなたはそうした意味で罪人ではありませんか？ところで、みなさん、このイエス様の最期を知って不思議に思ったことがありますよね？弟子たちの集団があったわけですね。また、命を救われた人々もその関係者も数多かったのですよね？ユダヤ全土を揺るがすほどの、絶大な人気があったイエス様だったのに、ここに至って、命がけでイエ

ス様を救う者は、誰一人いなかったのでしょうか。一人でも武器を持って悪と戦おうとする人物はいなかったのでしょうか？残念ながら誰一人、イエス様を救済しようとする人間はいなかったのです。そればかりか、数人の女性たちを残して後は蜘蛛の子を散らすように、その場から逃げてしまったのです。イエス様は始めから、戦うための武力集団を作ってはいませんでした。戦う戦士を養成していませんでした。むしろ人々に奉仕し、人々を愛する集団をつまり教会を作ろうとしていたのは言うまでもありません。ですから逃げていってしまうのも無理は無いのです。

■ところで、あなたが、もし、その場に居合わせたいましよう。あなたはどんな態度を取るでしょうか？何もしないで、弟子たちと同様にすぐ逃げる。それが一番賢明かもしれません。でも、逃げてしまう行動はそれこそが、無作為の罪なのです。「イエス様のためなら喜んで命を捨てます」と調子のいいセリフを言っておきながらさっさと逃げるその根性が、実は「罪」なのです。あなたはそうした意味で罪人ではありませんか？妙に聞こえるかもしれませんが、イエス様が十字架にかかって死ぬことは、ご自身の最大使命だったのです。ユダヤ今日の指導者たちが信奉していた旧約聖書にもきちんと預言されていたことだったのです。人類の救済のために、その身に、私の罪、そしてあなたの罪を背負って、私に代わり、あなたに代わって、神の赦しを請うために、十字架で罰せられることが、イエス様の人生の最大目的だったのです。

聖書からの引用

まことに、彼は私たちの病を負い、私たちの痛みをになった。だが、私たちは思った。彼は罰せられ、神に打たれ、苦しめられたのだと。

旧約聖書イザヤ書 53章4節